宮崎県の歴史・番外編　近畿東海の佐土原		佐土原 420 周年ニュース
兵庫県丹波篠山市 1	No.16	近畿佐土原会　令和５年５月６日

○　佐土原藩島津以久公「丹波篠山城」の天下普請はあったのか？
丹波篠山城表門内堀石垣・謎の「丸に十文字紋」刻印石

“よおーい、よおーいデッカンショ！”の節回しで知られる『デカンショ節』の里で、城下町風情が数多く残る「丹波篠山」は、５月の連休中、大勢の観光客でにぎわった。

「丹波篠山城」は、古来より京から山陰へ抜ける要衝の地にあって、関ヶ原合戦ののち，大坂城を遠巻きにするように各地に築城された徳川家康の天下普請の城のひとつ。

丹波篠山城北側の大手から三之丸公園の「国史篠山城址」の碑と「篠山城案内板」へ進む。二之丸へ続く廊下門を上り表門の右手をチラリと見ると、内堀石垣のちょうど目の高さに「丸に十文字紋」の刻印石がいくつもある。大書院の学芸員さんによると、薩摩藩のものではないか、と問合せがたびたびあるそうだが、築城史料の普請助役大名 15 カ国 20 大名中、薩摩、佐土原の名はない。とすれば、築城の無事を祈る十字のまじないの刻印石か？と考えられる、としている。

《 丹波篠山城の石垣「丸に十文字紋」は佐土原藩の刻印石か！？ 》

一方、佐土原側の記録では、慶長 11 年 2 月、以久公は佐土原を発し、駿府城の家康公を謁見。この頃以降に江戸城修築、駿府城、丹波篠山城、丹波亀山城普請を命ぜられたとする。慶長 15 年（1610）、丹波篠山城普請のためまず家老樺山久成が上洛、続いて以久公も伏見屋敷へ入る。ただ、この時に以久公は伏見屋敷で急死してしまった。普請を命ぜられたが、篠山側の記録にない。とすれば、考えられるのは、石垣石工たちは石丁場に入って採掘を進めていたが、藩主急死に伴い急遽普請辞退。佐土原藩刻印石は不要になったが、築城に使用された。丹波篠山、佐土原双方の見解に食い違いがある。この先、あらたな史料が発見されるまで決着はつかない。“結論先延ばし、楽しみはこれからだ!!　まだしばらくとっておこう！”